

【重要なお知らせ】日本経営史学会と EBHA (The European Business History Association) との共催による 2012 年のパリでの学会について

つい最近、学会のテーマについての情報が EBHA の webpage に掲載されました。以下のリンクを参考にしてください。

<http://ebha.eap.gr/conference.php>

まだ詳しい情報が掲載されているわけではありませんが、テーマについては一応の説明があります。

さらに、今後の大まかな日程が判明しましたので、お知らせします。

1. 大会で発表を希望する方は、英文で発表内容の概要を提出する必要があります (WORD での応募が望ましい)。応募には 2 つの方法があります。1 つは、3 人の報告者 (~~日本人は原則として 1 人に限る~~、少なくとも 1 人は外国人とする (訂正)) が 1 つのセッションに応募することです。この場合、セッションの代表者が、3 報告の概要を示しつつ、セッションの目的と構成の意味を A 43 枚以内の英文にまとめて提出することが求められます。もう 1 つは個人で報告に応募することです。この場合、報告の内容を A 41 枚の英文にまとめて提出することが求められます。審査委員会が、採択された他の個人報告と組み合わせて 1 セッションを編成することになります。応募締切りはいずれの場合も 2012 年 1 月 15 日です。
2. 上記の応募書類の送付先については、今後、大会に関する webpage が用意され、そこに送付先の e-mail アドレスが記載される予定です。原則として、e-mail に提出書類を添付することになります。その際、本学会としてどなたが応募されているのか把握したいので、お手数ながら CC で本学会事務局にも応募することを必ずお知らせ下さい。
3. EBHA 及び日本経営史学会から派遣される委員によって発表の採否についての審査が行われて、プログラムが確定するのは 2012 年 2 月末です。
4. 学会で発表することになった応募者は、2012 年 7 月末までに大会用 webpage で今後掲載される e-mail アドレスに abstract を送付する必要があります。コメンテーターと司会者には abstract に加えて、発表する論文の全文を同じく 2012 年 7 月末までに送付する必要があります。(なお大会用 webpage には、発表者の希望により発表論文の全文を掲載することも可能です。)
5. 大会は 2012 年 8 月 30 日から 9 月 1 日までの 3 日間開催されます。大会初日の午後に学会は始まりますが、両学会会員による報告は 8 月 31 日と 9 月 1 日に割り当てられます。
6. 個別報告の発表時間は 20 分間。一つのセッションは、3 つの報告とコメント、討論をすべて含めて 1 時間半の予定です。

7. 報告会場は6会場で、6セッションが同時並行で行われます。また、午前、午後に各2セッションが設けられる予定です。したがって、2日間のセッションの数は延べ48です。
8. 宿泊場所については、今後、大会用 **webpage** で推奨する(割引価格での宿泊が可能な)ホテルがリストアップされて、各参加者が直接ホテルにインターネットなどで申し込みことになります。また大学院生の場合には、安い宿舎が別途用意される予定となっております。

以上、パリ大会の主催者であるフランス社会科学高等研究院教授 **Patrick Fridenson** 先生、日本側のコンタクト・パーソンをお引き受けいただいている東京大学教授和田一夫先生、及び阿部の3名による打ち合わせ(7月26日午後、東京大学小島ホールにて)の結論です。今後多少の変更があり得ますので、ホームページ等での掲示にはご注意ください。

EBHA 側は、日本経営史学会との共催の大会の実現を大変喜び、また期待しておられます。48セッションの多くに1人ずつの日本人報告者が出てくれることを先方は要望されています。また、大学院生やポストクの若い会員の積極的な応募も望んでおられます。会員各位の積極的なご応募をどうぞよろしくお願いいたします。

経営史学会会長
阿部 武司